

譲っていただいた編み物は、ずいぶんほどいて毛糸玉になりました。毛糸を展示しています。ぜひご覧ください。

たんすレター



第3号

山王女性会とワークショップ

「たんす」のある山王地域には、「山王女性会」というグループがあります。昭和21年に西成区の女性たちが、女性たちの集まれる場を作り、学習活動や地域での社会活動に積極的に参加しようという動きの中で各町に生まれました。女性会員が減少しているという状況もありますが、山王女性会は今も活発に活動している女性会のひとつです。

2月28日、山王女性会の方々12名を「たんす」にお招きして、一緒にかぎ編みのモチーフを編みました。昨年「編み物をほどく／ほぐす」ワークショップを行ってきましたが、今回は初めての「編む」ワークショップです。この地域では『10人いたら9人は編み物ができる』とおっしゃるくらい、手編み経験のある女性がほとんどです。みなさん、編む早さのはいいこと。数ミリの毛糸を指先のかぎ針で拾っていくと、みるみるうちに、ふんわりとした花のようなモチーフが手の中に生まれていきました。編み目のすき間をつめて編む人、ゆったり編む人。ほどいては納得のいくまで編み替える人。とにかく集中して編み続ける人。また、毛糸の色や種類の合わせ方など、編み物には、編んだ人の個性が表れるといえます。数種類の編み図を用いて、多

彩なモチーフができあがりました。

編みながら、これまで手づくりした編み物のことや、それぞれの好みやこだわりを教えていただいたり、写真を見せていただいたり。ご自身の手編みのものを着ていらっしゃる方もいて、とにかく編み物にまつわる話が尽きない2時間でした。



「たんす」は、昨年12月の開館から4ヶ月が経とうとしています。ワークショップに参加してくださる方の他にも、ガラス越しに見える毛糸に興味を魅かれて「たんす」をのぞいて行く方々が少しずつ増えてきて、まちの人との新たな出会いや編み物にまつわるいろんなエピソードを聞く機会も増えてきました。少しずつですが、「たんす」とまちの人たちの間にもいろんな関係が生まれ始めている気がしています。(S)



「たんす」のひき出し

にしこおりともこ
第3回 錦織朋子さん（山王みどり苑 相談員）

高齢者のお宅を訪問しお話をうかがうと、様々な思い出の詰まった記憶の「ひき出し」に触れることがあります。趣味のことだったり、家族のことだったり、どれもかけがえのないものばかりです。

先日、文字どおり、ひき出しの中のものを見せてもらう機会があったのですが、そこには手編みの作品たちが大事にしまわれていました。現役で活躍中のカーディガンやチョッキ、毛糸のパンツなどなど。手芸に疎い私も思わず興奮してしまうくらい見事なできばえでした。編み方はわからなくても、編み目や色使いから編み手の個性が伝わってくるから不思議です。

ひとり暮らしで一日中誰とも話さないこともあるというその女性には、これをきっかけに、デイサービスではなく、ここkioku手芸館「たんす」に足を運んでもらえるようになりました。

素敵な出会いがたくさん生まれ、新たなつながりが広がっていく、集いの場。これからも「たんす」を応援していきたいと思っています。